

衛生問題

は輸送責任者は之が外に洩れんことをおそれ其病名をかたく秘して患者にさへ知らしめず只管検疫所を無事にバスするやう心がけてをる云ふ。萬里の波濤を越えて遙々渡來せる移植民をたゞひ一日たりとも検疫所邊に徒らに過ごさせるは誰人も好まぬところで一日も早く無事目的地へ届けたいとの主意は甚だ結構と稱すべきもたゞ當面の責任を免るれば足るとして適當の豫防策を講するなく之を其儘放置して顧みざるが如きこそありとせばこは由々敷き大問題である。殊に流行性惡疫など検疫所をバシしたが爲めに終焼すべきではなく必ずや後日何處かに於て再發するの危険がある、それを殊更隠蔽して其儘引渡を了え何等其實情に就いて報告すること非ざる爲め其後の手當に豫備知識なく終に大事に至つた例は少病などヒタ隠しにかくして之を耕後に於ける保健問題について之を放任するなど人道上から見て以ての外の不埒と謂ふべきであつてはならない、吾人をして言はしむればそは寧ろ副產物と却すべきであつて其主なる目標とは移植民それ自身海外移住の日的是を果す爲めに最重要な保健公事に置くべきである、随つて事的の迴縫策には何程の有難味也感せられず却つて姑息な手段を弄したがために測られざる禍を醸せることあるが如き前述通りである。

先年聖市衛生局が横槍を入れて以來衛生當局の外來移民一殊に日本移民に對する検疫が頗る厳しくなつたので駐在國官憲並に海興では大いに神經を惱まし爾來船會社と協力して船中衛生に留意した結果最近に至つては本邦移植民の衛生狀態は至極良好と認められ入國に際して繁鎖を極めた検疫も甚だしく寛大になつて來たのは渡伯移民の爲め真に慶賀すべきことである、然るに近頃耳にするところに依る上陸の際ににおける検疫を出るだけ簡易に片づけるやう焦慮せる結果偶々船上に於て流行性の惡疫等發生せる場合船醫或植民の入國を容易にし輸送取扱いも大いに輕減し得たであらうれば明かに船中より持ち來しなじみの犠牲者を出し現にアリアンサンでは病床に呻吟してゐるものさえある、これ等は船中と陸上との間に於ける衛生に関する聯繫を欠いた生きた證據であつて必際若し船醫又は移民輸送責任者と海興又はアリアンサン移住地經營者との間に豫め衛生上の聯繫を得たならば其犠牲を得たか或は尠くあれこれ八金しく云々するのは移植民の衛生狀態に就いて彼

見立耕に

サンバタロ市
サンジョアキン街六ス
郵局 三七五
電話 二一六一八二
本紙定價 每年廿五ミリ

國民黨の活躍

費一萬八千コントスには何を動搖もないと云ふ

の
ブラジルのセルトンには左様な
血のめぐりの良い悪太郎は居な
しておいて三日間休養、その間
にカノアを雇ひ愈々九月二日を

渡航費借用者諸君に謹告

當社渡航費貸付金は一昨年來續々内地保證人へ請求して返済をお願してゐます。早く御入金なりませぬと御氣の毒ですが保證人より取立の手續を致します。幸ひ收穫期にもなりましたから此機會に出来るだけ御入金

なさつて保證人にご迷惑を掛けぬ様にして下さい。

海外興業株式會社
國伯支店

リカリ
四

手紙の
へには
るべし

日本内地郵便爲替料、書留料其他總て當店に於て負擔致し即全無手數料にて御郷里受取人へ送り届け申上候

金子はコンバル、郵便爲替又は
銀行小切手にて當勘定へ御送り下度
猶ほ横濱正銀行でござして、バンコ
クレジンアレスタード、サンコ

エバクロ、又は御便宜の方は、バンコノロ、エスター、ド、テ、サンバウ
ヘ御拂込被下ても差支へ無之候

四、何れにしても送金申込書は必ず忘れ
ず、當店へ御送り被下度候
(第貲定期預金六月以上平
五 分)

金預
全價貨全
壹ヶ年以上年五分
非貨定期預金六月以上年五分

RUA
R
伯貨當座預金(小)……年四分

預金通帳は書留郵便にて御送附可申上候
間御申込之際最寄郵便局御指定相成候は
ば御便宜に有之候 敬 具

リオ・デ・ジャニロイロ
横濱正金銀行
支店

切を差引いて十割以上の儲けを見てゐる、上江洲君自身も此手で大分懐をあたゞめたが生憎聖市に突發した革命のとばしりを喰ひカミニオンを二回も徵發されたので運々歸めをつけ廢棄しあつたうなが「隨分惜しいことをしましたよ」と述懐のうちに少からず口惜しさうな風が見えた、話は前に戻るが最近の消息によると我が太閤君は先達ガルサスの川べりで八カラットからのデカ物を拾ひ當てた、此奴時價に見積ると少くとも三十コントスは動かぬさうで遅くとも正月頃迄には町に出てこれ才けの金で思ふさまどん的に浸りたいと知人のところへ便りがあつた、其邊にウヨ〜としてゐる若い衆もういゝ加減に家庭奉公やカサカさきの修業は罷めてガルナス行の男らしい壯舉を考へてはどうだ

月齢の午前六時四十分汽車はカンボグランデへ向けて出發したそれから十三時間は鐵路の右も左も涯知れぬ牧場で其規模の雄大さは全く言語に絶しまことなく地悠久の感がある、昔武藏野の廣さを三十一文字にうたつて親り悦に入つてゐたと云ふ太田道灌方に此曠野を見せたなら恐らく虎をつぶしたことであらう、聞けば麻州の大部分は斯様な無人でそれが殆んど英人の經營するところ、この状態が永く續かうものなら百四十万平方キロメートルの大麻州は遠からず英國人の所有に歸するであらうと嘆くのやうな本當の話があちこちの豪農の土の間に眞面目に考へられてゐるといふ、彼奴何百アルケレス買つた怪しかんなごおの日本人と比べてケツの穴の大きさ加減お話になりますかいな午後七時二十分ごろカムボダランデに着いた、こゝはパウルより九百キロ、塵市から千三百キロある、塵市を自分の巣喰

ふところと思ふことにしてゐる
俺にやうやく旅の氣分が湧いて
来た

新居雑吟

味覺禮讃

南 樹

なくてならぬその「タバスコ」
一二満老いてはにおき舌の感嘆
まだ顔も得洗はざる枕元早も甘
て来しコーヒーのかほり

オムレツの黄に點じたる芹の香
たうべぬ先きに味覺をそぐる
牡蠣に暮すレモンの半滴々とて
るゝ其間を吾は楽しむ

花片の如くむきたる皮のまゝの
赤き小無に心ひかれつ

椰子の木のバイヤは暑し始めて
の辛きカルルに涙こぼしつ

朝めしにこき味噌汁の蕪の味
つ鶏卵を落したるはよし

白々とまだ漬けたらぬ白菜の四
にもられてすが／＼しかも
とく／＼と泡立つ麥酒のみほ
てほと息したりこの息うれし
る綠のサラダは皿にもられた
ふと見つめたる花立てのバラ

木のクロス

十字架

アグアリンバ

南 天

荒家の平原に
クロス立てり
眠るは誰が魂か

歳月の色に寂れ
むすこけ風に泣けり

いよ／＼實行期に入つた

ト ラ ホ ー ム 撲滅 運 動

かねて同仁會から母國政府に請

願中であつた在留同胞のト ラ ホ

ーム撲滅費二万二千圓は先頃下

附になつたので、同人會では其使

途につき臨時總會を催し協議の

結果新でにト ラ ホ ーム撲滅部を

設けバウル市、齊藤ドクトルを

主任として實行に着手する事に

なつたのは既報せるところなる

が愈々來月十五日より十九日迄

五日間ノロエスラ線プロミッソ

ン驛で第一回ト ラ ホ ーム講習會

を開き主として小學教師に治療

法を教へるさうである今該撲滅

部の内容と實行方法とをみるに

下附金一万二千圓は貨物に換算

して四十六コントになるが此僅

かの金で六万同胞のト ラ ホ ーム

を撲滅しやうと云ふのだから實

行方法案出迄には可なり頭を悩

ましたが結局左の事業を行ふこ

とに決定した

一、學校教師に簡単な治療を委

托すること

二、學校教師を主とする講習會

を催す

三、講習生の旅費は各團体に於

て負擔し講習會開催地に於け

る滞在費は撲滅部より支給す

四、撲滅部主任を齊藤等氏に依

嘱す

五、講習終了者にして一ヶ月間

實行の任に當りたる者に對し

ては年二百乃至六百圓の手當

を撲滅部より支給す

六、南洋方面の講習會はレヂス

ト・植民地菊池田平氏に依頼

し其講習を了へたる者は齋

藤主任の講習終了者と同様の

待遇を與ふ

七、實行に要する薬品及器具は

各團體之を負担し撲滅部は實

費を以て之が取次をなすこと

あるべし、但し第一回講習終

了者の所屬團體に對しては差

當り必要な薬品及器具を無

試みてゐる

本日移民七百七十一名を載せて
入港わかれ丸は十六日入港移民
三百八十六名

● 移民船入港 さんとす丸は
酒寄守氏來聖 大阪商船サ
ントス在勤員の木對氏は明十四
日サントス出帆のらぶらた丸で
(ジョゼ・テオドロ) ソロカバ

アヴァレ町附近に

邦人の慘殺死体

アヴァレ町附近に

去る二日ソロカバナ線アヴァレ

町を去る二キロメートル地點に

惨殺死体あるを一伯人が發見し

直ちにアヴァレ町警察署に報告

したので早速取調べたところ該

死体は日本人と判明したが所持

品としては金百軒あるのみで他

には何物もなく姓名住所等一切

不明であるが年齢二十五六才位

の屈強な沖縄縣人で年末に知人

を尋ねてアヴァレ驛に下車し

パラグランデに赴く途中らしく

身元は目下取調べ中である

不明であるが年齢二十五六才位

の屈強な沖縄縣人で年末に知人

を尋ねてアヴァレ驛に下車し

パラグランデに

轉生

（三）
『どう致したならば死者の怨みを解くことが出来るでせうか。その方法をお教へ願ひ度う存じます』
『それは別の事はない、婦人の靈を祀つて貴君の心から罪を謝するより外に方法はないのです私の云ふやうにして行つて御禮なさい』
といつて觀相家は靈を祀る方法を詳しく傳授してくれた。純齊は家に歸つて直ぐさま壇を設け、加代の靈を祀つて、香華を手向げて罪を謝した。
『私はお前を欺く心はなかつたが、年の若い私の前にはいろいろなものが現はれて来て、江戸を出て後といふものはとにかくお詫びのことを忘れがちになつたが、私は今でもお前のことを考へると懐しくなる、私は今でもお前を愛してゐる、どうか私を怨むことを止めてくれ』
彼は心中でさうり返し乍ら毎日加代の靈を拜んだ。すると不思議なことに全く聞えなかつた左の耳が少しづゝ聞え出して來て二ヶ月三月経つと完全に癒えてしまった。純齊は非常に喜んだが、その後も彼は毎朝加代の靈を拜むことを忘れないがつた。
大概の人が、男でも女でもさうしたが青年時代には知らず／＼罪を犯してゐるものだ。そしてまさか自分の犯した罪を考へて見ても、それが世間に幾らあることであつて見ればなほ畢竟は、ほんとうを云へば消えものではないのである。犯した罪はそのまま、永久に残つてゐること、何時となくその創も察えて忘れてしまふのが普通である。しかし、人間の心に着いた創は、ほんとうを云へば消えのないこと、何時となくその創も察えて忘れてしまふのが普通である。犯した罪はそのまま、永久に残つてゐる。

の顔はそこにある下婢の顔で、全く同じものだつた。あの色白で、富士顔のはえ際、一寸眉寄せるときの癖、そんな處まで、殆ど昔のお加代をそのままであるやうに純齊には思へた。純齊の心は怪しく動搖した。「ねいさん、お前の名は何ですか」「ふんだね」下婢はこちらを振り向くと、つり微笑して疊へ膝をつけ、「貞と申します」『お貴様など云ふのか、好い前だね、それからお前何處か来てゐるのだ』「妾は高嶋の者で御座います」「いつから此家へ來なすつたのですか」「まだ、まわりまして三月位しかなりませぬ」『さうかーして、親達はどうあてゐなさる』『親は二人とも亡くなつてしまひました』『うーむ、それは氣の毒なことです。しかしあ前は年が若いからまだ幸福なことが澤山あるだう』

「どうも今夜は睡くなくて困る氣になつた。お前はね、私が昔知つてゐる女に似てゐるのだ、私がもう少し若ければ」

するとお貞はズル^ルと側寄つて純齊の手を捉へて嫣然につて『貴郎、加代をお忘れになつたですか』といつた。

『あ……』純齊の耳はそのゞガーン^ンと鳴り出して氣が遠くなるやうだつた。

『妾は加代で御座います、幸の約束を果して下さいまし』

そんな聲が純齊の耳の側でえてゐた。

暫らく経つて純齊が氣がつて見ると、お貞がしきりに彼女の背中をなでてゐた。彼女の眼鏡で愛情で燃ん輝いてゐた。

數日後純齊は江戸へ歸るゝお貞をつれて歸つて彼女を幸した。するとお貞の腹から男の子が生れた。本妻には子がなった。するをお貞の胸から里のア本妻もその子を自分の子やうに可愛がつてゐたが、その後は數年後に病氣になり死んでしまつた。お貞が正妻になつた時が前に遺言をしてお貞を正妻にゆうにといつて息を引き取らすやうにといつてお加代の死んだ齡と同じだお加代の死んだ齡と同じだた。

日本品輸入商 鈴木正雄 舊藤崎商會聖市支店
SERRA HERCULES Martins Barros & Cia. Ltd.
Elixir 914